

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773100508		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	船引クリニック グループホームすみれ		
所在地	福島県田村市船引町船引字砂子田1-1,1-2		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員と利用者との信頼関係が厚い ・医療機関との連携が取れているので、身体の変化にすぐ対応でき、安心できる環境を整えている ・以前より認知症の重度の方が利用しているが、地域の行事・外出や、利用者の希望により 外食・出前等の機会をつくり、本人の意思を尊重した支援をしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業所理念を全職員で理解と共有を図り、日々の業務の中で常に確認しながらサービスの提供に努めている。 2. 同敷地内に法人のクリニックがあり、利用者が常に適切な医療が受けられる体制となっており、重度化や終末期の対応支援がなされている。 3. 研修計画に基づき、計画的に研修を実施し、職員資質の向上とサービスの質の向上に努めている。また、法人が職員の資格取得を積極的に支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示しているもの、各個人で持参している携帯用のもので再確認し、業務へ入るよう心掛けている。	事業所内への理念の掲示と、全職員が名札の裏面に表示し、業務開始時や業務の中で確認しながら実践につなげている。理念にそぐわない対応が確認された時は、管理者等が会議や個別面談等で再確認し周知徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加や、共同浴場を利用し、地域の人と交流する場を増やしている。又利用者と一緒に近隣のゴミ拾いの活動を行っている。	地域自治会には加入していないが、区長や民生委員との情報交換や地域の祭り、町の文化祭見学に参加し、ボランティア、中学生の体験交流の受け入れを行っている。また、散歩やゴミ拾い、保育園児の訪問等日常的に交流が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、区長さんや組長さんに参加していただき、認知症の理解や相談の窓口になれるよう話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	メンバーの方々は、地域の情報など、様々な情報を持っている方々なのでサービスの向上につながっている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所の運営状況や利用者状況を報告し、委員からは地域の情報提供や助言等を頂きサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報の交換や不明な点などに関しては、市役所へ訪問し確認をしている。	行政担当者とは事業所の実情や利用者状況、課題等について相談し助言を頂き、日頃から連絡を密にし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加したり、スタッフ会議などで話し合いの場を設けたり、身体拘束禁止の認識を高めるよう努力している。	研修会や会議の中で、身体拘束の具体的な行為やその及ぼす影響について理解と共有を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、利用者に対する不適切な対応と思われる言動等が見られた際は、職員同士で確認し合える職場環境がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等を行い職員同士で虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議メンバーの包括支援センターの方々から勉強会の機会を作っていただき内容や必要性などを理解することができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者又は家族と話し合いの場をきちんと設け、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望がある場合には、すぐに話し合い、できるだけ早く解決できるよう努めている。面会時にはその都度声かけし話を聞くようにしている。又、運営推進会議でも話し合いができるようにしている。	日常生活の中で利用者の思いや要望を把握するよう努め、家族等は面会時や利用者状況報告の際に意見や要望を聞くよう努めている。また、運営推進会議に家族代表の参加を頂き、利用者は会議内容を傾聴できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフト制の為うまく伝わらない時もあるので職員会議、毎日の申し送り意見・要望を聞き、反映できるようにしている。	会議やミーティングの中で職員の意見を聞く機会を設け、出された意見や提案を運営に反映させている。また、状況により管理者等との個別面談で意見等を聞く機会を設け、出された意見を反映出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修はなかなか無いので、社内研修の機会を持ち、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修会に参加し、一人ひとりが力を出せるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は交流があったが、今現在は行っていない。機会を持ちたいが、そこまで至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や声かけに気を付けながら、本人の訴えに耳を傾け、寄り添った介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に今現在の状況を話し、家族からは今までの生活歴、要望等を聞き、関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの現状、要望により必要とされるものを見極め、支援している。 又、入居後も、ご家族の協力が必要であることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の家事(できること)と一緒にを行い、お礼の声かけを心掛けている。 一対一での入浴介助での会話も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等への参加を促したり、面会の機会を多くもっていただくよう声かけを行っている。 面会時にはホームでの生活状況等を報告したり、遠方の家族にはおたより等で連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所している年齢は高くなってきたが、外出等の要望もあるので、体調面に注意しながら外出できるようにしている。一部の利用者だが以前から利用していた美容室の方に協力してもらい、関係を続けている。	美容室の協力により馴染みの美容室に行ったり、友人の訪問や家族の協力により食事や温泉に外出するなど馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合えるように座席の工夫や気の合うメンバーでの外出やレクリエーションにて気分転換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、退所後でも気軽に立ち寄っていただけよう話をしている。 又、退所後でも家族にあった時は状況等を聞き、家族との交流に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多く持ち、本人の希望・思いをくみ取り対応している。 又、意見を出し合い、話し合っ取り組んでいる。	日頃の関わりの中から利用者の意向や希望の把握に努めている。また、困難な利用者には、日常生活の中での仕草や行動、表情等から本人の意向を汲み取り、家族からの情報を基に本人本位に会議等で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に本人または家族に生活歴など何うように努めている。又、本人や家族との信頼関係を築きながら、今までの暮らし、出来事を伺い、自分らしく暮らせる手がかりを見つけることを積み重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしにそって、できること、できないこと、わかること、わからないことを全職員が意識して暮らしの中で発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に思いや希望を聞き、職員間で意見を出し合い、話し合った結果をもとに、作成アセスメント、モニタリングを繰り返し、期間ごとに見直し、要望の変化に応じて行っている。	利用者を担当する職員が決まっており、その職員が個別記録、申し送り内容等から毎月、サービス提供状況や課題等をまとめ、それを基に全職員で意見交換を行い、利用者、家族の意向に沿った現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実施、気づきや工夫を記入し、申し送り帳を使用して職員間で密な情報を共有できるようにしている。記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時、できる範囲で利用者の生活歴などを伺うようにしている。又、その時々利用者のニーズに合わせ、本人に合わせた支援が提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新聞、広告、広報誌より情報を得て、可能な限り参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科・歯科受診は家族の付添いにて対応している。	希望のかかりつけ医の受診ができるが、内科は法人の医師を全員が希望し、眼科、歯科は家族の付き添いで通院している。受診後の情報も相互に共有されている。緊急時もスムーズに受診できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの健康状態を把握し、特変に気付いたら看護師や訪問看護師に伝え、適切な対応の指示をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クリニック入院時は洗濯物を取りに行った際に状態を聞いたり、外部への入院時は家族や相談室との情報交換、カンファレンスに参加している。又、いつも受入れができるようベッドや備品の準備を行い態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族に希望や思いを聞くようにしている。その状態に入った時は、医療・家族・スタッフで話し合い、対応を統一し支援している。	利用契約時に事業所の指針を説明し、本人、家族と方針を共有し同意を得ている。また、終末期の対応や状況変化時も医師、家族、職員が話し合い方針の共有と同意を得ながら、適切な支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、緊急時に対応できるようマニュアルを作成し、勉強会や資料配布を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の他に、防災無線の使い方や各スタッフごとの利用者の誘導方法を確認・実施している。	防災機器の取り扱い、通報訓練が行われ、火災を想定した避難訓練を2回実施し、消防署の指導を受け夜間を想定した訓練もしている。敷地内の他事業所、医院などから緊急時の応援体制がある。また、非常用備蓄品も準備している。	火災、水害、地震など各種災害を想定し、夜間も含めた避難訓練をできるだけ多く実施し、災害時の対応を全職員が身につけられるよう検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やこだわりを尊重し、その人に合わせた声かけ・対応を行っている。	利用者への声かけや対応など研修や会議、個別面談で徹底されており、対応困難な利用者にも配慮した対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えではなく、利用者のペースに合わせて利用者の思いや、希望に耳を傾けるよう配慮している。訴えができない人に対しては表情などからくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体的に軽度の方の利用者が増えたが、認知もあるので体調等に注意しながら本人の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を話してもらい、床屋へスタッフと外出対応している。朝の身だしなみには声かけし鏡を見て直してもらっている。入浴時はスタッフと一緒に服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	行事食などで好みの料理を作り楽しんでもらっている。 希望に応じメニューの決定や外食・出前も行っている。	利用者の好みや、季節感を取り入れたメニューや、季節行事を楽しいものになるよう献立を工夫している。利用者の能力や希望に応じた下準備、配膳、コップ下げ、テーブル拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない人に対しては好む物を準備し、脱水にならないように支援している。栄養面では食べやすいように調理工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日声かけし本人に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができていたため、維持ができるよう支援している。本人に合わせたパット・リハビリパンツを準備し自尊心を傷つけないように対応している。	表情や仕草、排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、トイレでの自立に向け排泄支援を行っている。便秘解消のため牛乳、ヨーグルト、豆乳、糸コン料理など飲食物に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のため、下剤だけでなく食べ物・飲み物で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせて入浴をしてもらっている。一対一の個浴にて普段あまりしないような話をしてもらったり、共同浴場に行き楽しんでもらっている。	季節や利用者の状況に応じ、週2～3回の入浴をしており、季節のゆず湯、入浴剤を使用したり、旅館浴場で楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその時々状況に合わせている。湯たんぽやエアコンで安眠できるように環境作りをしている。トイレと居室の温度管理にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、作用・副作用など注意する事を医師・専門の方に聞き、申し送り・会議等で確認している。又、日付・名前の確認をし、誤薬のないように対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などを知ることで本人の力が出せるように支援している。植木の水やり、家事の手伝い(食材の下準備)など、役割をもって生活していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期は、施設周辺の散歩に出かけたり、近くの店(理容)へ出かけたり、職員の付き添いのもと外食の機会を設けている。	事業所周辺の散歩、買い物、食事、ドライブや河川敷で花見を楽しむなどの支援をしている。家族の協力で外食、外泊等の支援もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には本人・家族等の希望に合わせており、外出した時などは支払いの機会を持てるようにしている。自分で管理できない人には預り金で好きなものを買ってくるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	静かな場所で周囲を気にせずに話ができるような声かけ環境作りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中や夜間のテレビ音量に気を付けており、季節の飾り付けを工夫している。空気の入替えや光にも気を付けている。	明るく落ちついた建物で清掃も徹底されている。壁面に行事写真、広報や季節の共同作品が飾られている。空調にも配慮され、生活感が感じられるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や廊下に椅子を置き、自分の好きな場所で過ごせるようにしている。冬場はこたつを設置し、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	本人と家族の自由にしている。使い慣れた物や馴染みの物、家族写真などを持ってきていただいている。又、ホームでの思い出も大切にさせていただくために、自分で作った作品や写真も飾っている。	プライバシーに配慮され、ゆったりした居室であり、本人、家族と話し合い、馴染みの衣装ケース、テレビ、椅子などの家具や家族写真、家族からの誕生祝いの品、人形など思い出の物でその人らしく生活できるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには目印を付けたり、居室前には自作プレートを飾っている。本人にわかるような声かけをし、対応している。		